

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京極幼稚園)

1 平成26年度 重点評価項目

1. 自己発揮して遊ぶための環境構成 2. 安定感と温かさを基盤にした学級経営 3. 基本的生活習慣の自立

2 1回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定				・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	評価日 平成26年7月14日	評価者・組織 評価委員会	評価日	評価者(いずれかに○) 学校運営協議会 学校評議員
1 確かな学力	豊かな体験・活動	ねらいを明確にした保育内容の実践ができるいるか園内研修で確かめる。	・喜んで登園し、楽しい幼稚園生活を送っていると思いますか。 ・園内研修	「あてはまる」という回答率84%。園内研修で学期ごとの反省会を専門機関との連携を学期に1回もち、その後に伝達研修で内容を確かめている。	⇒ 分析 (成果と課題)	・子どもたちは全員がそれぞれ幼稚園生活を楽しんでいると思うが、学級運営が難しい。 ・様々な家庭背景の子どもや発達に課題がある子どもへの援助は専門機関の講師を招き研修できた。	⇒ 学校関係者評価による意見 ・保育のねらいは幼児の実態を把握して内容と活動を考え、個別の援助を支援員やボランティアの力も借りて行うことが必要である。 ・総合育成支援にかかる子どもたちのかかわり方はすぐに取り入れたが、視覚的な環境づくりも行いたい。
	総合育成支援教育	対象児の的確な実態把握と適したかかわり	園内研修と園内人権研修。専門機関との連携。	幼稚園には子どもがいろいろな経験ができる環境(素材・材料・道具など)が整えられていると思いますか。	⇒	・毎日親子に直接かかわる担任を中心に、教職員は普段の親子の姿を見て担任と連携し温かい気持ちで支援していく気持ちをもつ。 ・週単位で保育の流れを考え、例えば「忍者ごっこ」など主な遊びにポイントを絞った書き方をして、反省・評価をしていく。	⇒ 幼児期は夢中になって遊ぶ経験が必要である。子どもたちがのびのびと仲良く友達と遊べるように保育を進めてほしい。
	環境の見直し	園庭や保育室の環境を保育内容や時期で見直す意識をもつ。	幼稚園には子どもがいろいろな経験ができる環境(素材・材料・道具など)が整えられていると思いますか。	「あてはまる」という回答率57%			⇒ 毎月の学級だよりや園だよりなどで幼稚園の取組と子どもの育ちについて知らせていく。また、夕涼み会や運動会などPTA共催の行事や大きな行事は参観してもらい、感想や評価を聞く。
2 豊かな心	幼児理解	一人一人を大事にすとくいう教職員の意識作り	教職員は子ども一人一人に温かいかかわりをしていると思いますか。	「あてはまる」という回答率が77%	⇒	・温かいかかわりは「ややあてはまる」という回答も入れると100%であった。これからも受容的な態度で子どもに接し、保護者との連携も進めたい。 ・週案は行事が多い週は計画の記述が主になってしまう。	⇒ 地域版でも子どもの姿はよくわかるが回覧なのでどれくらい見てもら正在るか、疑問の余地がある。
	家庭・地域との連携	日常的な家庭との連携・地域版での子どもの姿発信	教職員は保護者の思いを受け止め、家庭と連携していると感じられますか。	「あてはまる」という回答率が60%	⇒		⇒ 「京極」という全戸配布の地域の機関紙があるので、担当者と連携しそこに幼稚園のことを年2~3回掲載してもらえるようお願いした。地域の人々に京極幼稚園を知ってもらう方法など情報を得たい。
3 健やかな体	生活習慣の自立	個に応じたかかわりを行う。	自分でできることは、最後まで自分でしようとっていますか。	「あてはまる」という回答率が77%。	⇒	・生活習慣について年少児の方が肯定的な回答が少なかったので、幼稚園での取組を知させていきたい。	⇒ 体を思いきり使って運動することが大事である。家庭ではできにくいようなので、幼稚園で期待する。
	保健年間計画の策定	保健職員と担任の連携	毎月の保健行事(体重測定)前のねらいの確認	毎月の行事予定の職員会で、保健行事のねらいと内容を再確認する。	⇒	・生活習慣の自立は個人差が大きく、一つ一つに大変時間がかかる子どももいるので、育成支援ボランティアも活用しきちんと指導する。 ・保健行事を行い気づいたがあれば記録し、見直す機会とする。	⇒ 運動会の遊びをするために、鶴山公園など地域の施設を利用し、思いきり体を動かして遊ぶ活動ができた。京都御苑や鴨川も今後利用したい。
4 独自の取組	保幼小連携	幼保プロジェクト(こどもみらい館)の目的に基づいた交流・小学校との連携	・地域と進んで連携しその特色(保育所の友達や小・中学校、高校の生徒との交流を生かした体験が、保育に取り入れられていると思いますか。 ・幼保および幼小交流の研修	「あてはまる」という回答率が40%。幼保交流の年間計画の策定と事前事後交流の研修をもつ。	⇒	・幼保交流では事前事後研修をもち話し合うことで、次第に互いに子どもの顔を覚え、変容の姿や良い面を見つけることができるようになった。小学校とは恒例の交流行事をもち、保護者も喜んでいた。 ・学級だよりを配布しているが、保護者にきちんと読まれているのか、確かめることも必要である。	⇒ 小学校や保育所との連携は良い取組であるので、どんどん進めてほしい。預かり保育も働きたいと思っている母親にはありがたい制度だと思つ。
	預かり保育	毎日実施と内容の見直し	預かり保育は、保護者の子育て支援、子どもの安全な遊びの場として利用されましたか。	「あてはまる」という回答率が80%	⇒		
	情報発信の充実	学級だより、懇談会、ホームページ更新	幼稚園だより(子どもの姿)やホームページで、幼稚園の遊びの様子がわかりますか。	「あてはまる」という回答率が53%			